

No-Dig Today 100号記念 未来へのビジョン



楠田 哲也

一般社団法人
日本非開削技術協会副会長

1989年に設立された日本非開削技術協会は機関誌としてNo-dig Todayを発行しており、やっと100号に届きました。当初は年2回発行、現在は季刊です。非開削技術と関係の深い土木学会誌は月刊で、今年度は第102巻ですので、まだまだ雛の段階にあります。それだけ今後の伸び代が大きいと期待されるところであり、それに応えなければならないと肝に銘じています。

日本非開削技術協会の創設から協会に関わってきた者といたしまして、よく100号まで届いたという思いと、まだ100号という思いとが交錯しています。しかし、見据えるところは将来と心しています。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった」という人口に膾炙された一連の文は、主語がない文章を含む日本語特有の表現であり、英語では決して表せない心の響きを表わしています。No-dig Todayは、誌名は英語ですが、内容は日本語のように心の響きを言い表せるものであり続けてほしいと願っています。

No-dig Todayは編集委員会にて編纂されています。通常の協会誌や学会誌は会員のみ配布されますが、No-dig Todayは非会員にも広く配布されています。このことはNo-dig Todayを読んでもらう会員の方々の意向に合わせて誌面を構成するという通常の編集方針では十分でないことを意味しています。この点が他誌の編集とは異なっています。多くの読者の意向に合わせてつづつ発行者の意図も具現化させていくことに腐心されている編集委員会の委員の方々には感謝し

ております。通常の機関誌は読者層が厚くなるほど内容は解りやすく、しかも専門性が薄まる傾向にあります。No-dig Todayは読者層が広がっているとはいえ、専門性を薄める必要性はまだなさそうです。言い直せば専門性を薄める必要性がないところまで読者層をより拡大できればという願いです。土木系の大学生、大学院生にも読まれる機関誌になることも夢です。このような難しさを含んだ現状から、将来への方向性がいくつか見えてきます。掲載が望まれる内容の候補には国内だけを考えましても、

- ・行政関係者や学生に非開削技術を理解していただくための入門シリーズ解説
- ・企業の事務系の方々に非開削技術の姿と考え方を理解していただくためのシリーズ解説
- ・学術関係者、研究者への学術的な情報

などがありそうです。加えて、No-dig Todayを一般記事と学術記事とに分離し、学術論文を掲載できるようにし、日本学術会議の学術協力団体として学術誌としての承認を得ることにより、研究者の方々に論文誌として投稿できるようにすることも夢です。

機関誌No-dig Todayの発展は日本非開削技術協会の活動の活発化と表裏一体の関係にあります。日本非開削技術協会は国際非開削技術協会の会員でもあります。日本非開削技術協会のホームページの会長挨拶にもありますように、国際的活動として、

- ・諸外国の非開削技術協会との情報交換
- ・会員の海外活動に関する情報面での支援
- ・海外技術者の受け入れ、会員紹介及び技術講演会の開催
- ・世界の主要都市で開催される「非開削技術国際会議および展示会（No-Dig 国際会議）」への出展と調査団の派遣

を標榜しております。非開削技術に関しては世界最先端を認めている我が国にとって、国際非開削技術協会への貢献は諸外国からの大きな期待に応えていくための責務といえるでしょう。また、国際非開削技術協会会員として、アジアでは中国、シンガポール、台湾、香港に次ぐ加盟国を増やしていくことや、技術的にアジアを引っ張っていくこともこれに含まれます。日本非開削技術協会は、非開削技術に関し、受身的に海外動向を把握するだけでなく、能動的に各国をリードしようとする協会でありたいと考えています。その

意味で、国際非開削技術協会や各国の非開削技術協会の動向、および世界各地の関連トピックスなど、さらには外国からの投稿原稿などが双方型で随時掲載されるようになると素晴らしいと思っています。そのためには国外の読者に対応した編集も今後課題になってきます。No-dig Todayの編集委員会の国際化に加えて、日本非開削技術協会に国際担当委員会を設置し、活動を具体化していくこと、国際非開削技術協会の幹事会（理事から選出）に米国のように常時参画するなど、機関としての意思決定だけでなく、各国の情報収集機能を果たし、それをNo-dig Todayに還元できるようにすること、そして、日本語の壁を乗り越え、アジアの共通語ともいえる英語を用い、日本非開削技術協会を情報面で支えるNo-dig Todayとなることが求められるようになれば素晴らしいです。

さらに、情報発信方法も紙媒体に拘らず、電子媒体の活用も射程に入れなければなりません。これからも皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。



40年の実績 プロが認める“仕事に役立つ”専門紙

下水道情報

SEWAGE WORKS NEWS BIWEEKLY

国土交通省所管の下水道事業をはじめ国の水環境保全に関する施策や地域プロジェクト動向を掘り下げて伝える“プロ仕様”の専門紙です。

- ◆独自調査データが充実 最近のおもな特集掲載例… [下水処理場の維持管理に関する動向調査] [社会資本総合整備計画から探る下水道事業の需要見通し] [下水汚泥の焼却・熔融等施設に関する実態調査] [日本下水道事業団の業者別受注高ランキング] [地方公共団体における管きょ更生工事の実績と今後の事業見通し] など
- ◆新技術開発、国際展開、主要関連団体・民間企業の動向、資源循環の取り組み、震災復旧、エネルギー対策、処理場データ、各種ランキングなど

- ◆国土交通省など国の水環境保全に関する施策、長期計画、予算、事業方針、組織・人事
- ◆日本下水道事業団の事業計画、予算、受託業務、技術開発、組織・人事、入落札情報
- ◆都道府県、市町村などの事業計画、長寿命化計画、維持管理・改築更新、予算・交付金、事業方針

・隔週火曜日発行 B5判 32～40ページ（通常）
 ・購読料 年間契約 88,700円（税・送料込）

■試読見本をお送りいたします。お気軽にご連絡ください。

お申込み・お問合せは

公共投資ジャーナル社 総務部 TEL. 03-6721-5371
 〒105-0003 東京都港区西新橋 2-19-2 ✉ ktj@nifty.com

！ウェブサイトからも情報発信中！
www.kt-j.com